

**製品名: 切断型第 XIIIa 因子 (G39) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08992**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	79kDa

**抗原情報**

遺伝子名	F13A1
別名	F13A1; F13A; Coagulation factor XIII A chain; Coagulation factor XIIIa; Protein-glutamine gamma-glutamyltransferase A chain; Transglutaminase A chain
遺伝子 ID	2162.0
SwissProt ID	P00488
免疫原	抗血清はヒト FA13A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 20-69

**背景**

この遺伝子は、血液凝固因子 XIII A サブユニットをコードします。血液凝固因子 XIII は、血液凝固カスケードにおいて最後に活性化さ

れる酵素原です。血漿因子 XIII は、2つの A サブユニットと 2つの B サブユニットからなるヘテロ四量体です。A サブユニットは触媒機能を持ち、B サブユニットは酵素活性を持たず、血漿担体分子として機能する可能性があります。血小板因子 XIII は、血漿由来のものと同じ 2つの A サブユニットのみで構成されています。カルシウムイオン存在下でトロンビンによる活性化ペプチドの切断を受けると、血漿因子 XIII は B サブユニットを解離し、血小板因子 XIII と同じ活性酵素である因子 XIIIa を生成します。この酵素はトランスグルタミナーゼとして作用し、フィブリン分子間の  $\gamma$ -グルタミル- $\epsilon$ -リジン架橋の形成を触媒し、フィブリン塊を安定化させます。また、 $\alpha$ -2-プラスミン阻害因子を架橋し、触媒活性も有する。補因子：サブユニットあたり 1 個のカルシウムイオンを結合する。疾患：F13A1 の欠陥は、F13A 欠損症[MIM:134570]の原因である。F13A 欠損症は常染色体劣性疾患であり、生涯にわたる出血傾向、創傷治癒障害、および罹患女性における自然流産を特徴とする。皮下血腫や筋肉内血腫といった一般的な症状に加え、頭蓋内出血などの重度の出血が起こることもあります。機能：第 XIII 因子はトロンビンとカルシウムイオンによって活性化され、トランスグルタミナーゼへと変化します。このトランスグルタミナーゼは、フィブリン鎖間の  $\gamma$ -グルタミル- $\epsilon$ -リジン架橋の形成を触媒し、フィブリン凝血塊を安定化させます。また、 $\alpha$ -2-プラスミンインヒビター、すなわちフィブロネクチンをフィブリンの  $\alpha$  鎖に架橋します。オンライン情報：第 XIII 因子のエントリ, オンライン情報：シンガポールヒト変異・多型データベース, 多型：このタンパク質には、F13A\*1A、F13A\*1B、F13A\*2A、および F13A\*2B という 4 つの主要な対立遺伝子型があります。さらに、2 つの中間体 (F13A\*(2)A と F13A\*(2)B) が存在すると考えられる。示されている配列は F13A\*(2)B のものである。PTM：活性化ペプチドはトロンビンによって放出される。類似性：トランスグルタミナーゼスーパーファミリーに属する。トランスグルタミナーゼファミリー。細胞内局在：血漿中に分泌される。ほとんどの組織では細胞質内に存在するが、血漿中にも分泌される。サブユニット：2 つの A 鎖と 2 つの B 鎖からなる四量体。

## 研究分野

補体と凝固カスケード;

## 画像データ

